

2013年度 芸術鑑賞会 5年ぶりの演劇鑑賞

磯高新聞

第159号
発行
神奈川県立磯子高等学校
新聞委員会
横浜市磯子区上中里町444
TEL 045-772-0166
FAX 045-776-2439

今号の主な記事

- ① 磯高の話題
- ② 修学旅行
- ③ 磯高の進路実績
- ④⑤ 文化祭
- ⑥⑦ SNSの実態
- ⑧⑨ 部活紹介
- ⑩⑪
- ⑫ 地域の話



劇の様子(劇団銅鑼公式HPより抜粋)

今年度も芸術鑑賞会が行われる。今回は、二〇〇八年以来五年ぶりの演劇鑑賞である。場所は例年通り県立音楽堂で、劇団銅鑼(どら)が上演する。

今年度の芸術鑑賞会は、十一月十三日(水)、西区の県立音楽堂にて、劇団銅鑼(どら)による、「ハンナのかばん」という演劇を鑑賞する。

芸術鑑賞会は、毎年、音楽鑑賞、演劇鑑賞、映画鑑賞が行われている。

順番に行われているが、二〇一一年度は郷土芸能鑑賞だったため、演劇鑑賞は五年ぶりとなる。講演時間は八十分間で、ナチスドイツによるホロコーストが行われていた時代のユダヤ人、ハンナ・ブレイディの人生を題材とした物語だ。



ハンナ(左)と兄ジョージ(右)

劇団銅鑼は、一九七二年に結成され「平和」「人間愛」「本当に人間らしく生きることとは何か」をテーマに活動している。(船見)

ユダヤ人の悲劇

ホロコーストとは

今回の劇中で「ホロコースト」という言葉が出てくる。「ホロコースト」とは、一九三三年から四五年までの十二年間、アドルフ・ヒトラー率いるナチス・ドイツによるユダヤ人大虐殺をさす。

本来は「全て焼き尽くす」を意味するギリシア語であったが、第二次世界大戦時、ユダヤ人迫害の際、彼らの間で「ドイツは、ユダヤ人を生きのまま火の中に投げ入れて焼き殺している」との噂が立ち、



ナチス最大の収容所アウシュビッツ(ポーランド)

本来的意味と合わさって「ホロコースト」と云われるようになった。ヒトラーは領土拡張戦争を

行つ中で、ユダヤ人絶滅計画を押し進め、ユダヤ人の市民権をも奪い、彼らの禁止項目は二千にも及んだ。また差別の星の着用を義務付けた。そして、ポーランドやセルビアなどといったヨーロッパ中に二万もの収容所がつくられ、奴隷労働、飢え、病気、毒ガスによる殺害などで多くのユダヤ人が殺された。殺されたユダヤ人は六百万人。そのうち百五十万人が子どもであった。他にも反体制者、身体障害者、同性愛者、黒人らが犠牲となつている。(船見)

劇団銅鑼について

今回の芸術鑑賞会で、「ハンナのかばん」を演じてく、奥田製作所。」など多ださるの、劇団銅鑼。劇数に及ぶ。作品によつては団銅鑼は、一九七二年に創立し、東京都板橋区に、事務所と稽古場をかまえている。代表作は、「燃える雪」ワークショップもある。



劇団銅鑼のイメージフォト(団銅鑼公式HPより抜粋)

また、「銅鑼をたたく会」という観劇料金の割引や稽古見学ができる特典の会員になることができる。有料だが、興味を持ったら、考えてみてはいかがだろうか。(長谷)

Column Liberation

「核」、「戦争」。この二つは永遠に忘れられない教訓である。この二つをテーマにした映画が一九五四年に公開され、

五十年間シリーズ化された。「ゴジラ」である。▼この映画は、同年にアメリカによる、ビキニ環礁での水爆実験の放射能を浴びた、古代恐竜が怪物化して襲来するという内容だ。人類が核によつて生んでしまった恐怖の象徴として、世に広まった。また、二〇〇一年に公開された作品では、太平洋戦争での戦没者の残留思念が宿ったゴジラが登場した。これは、戦争への反対を表現したものだ。▼現在でも、世界は多くの危機にさらされている。日本で一番身近にある危険といえば、福島第一原子力発電所の事故、北朝鮮による核実験が挙げられるだろう。このようなことを我々は、未来永劫味わっていかねればならないのか。少しでも、ゴジラのような、核や戦争への反対をテーマにしたものを見て、考え直すべきではないだろうか。▼将来の日本を作っていく我々若い世代は、今一度核や戦争の恐ろしさを学び、次の世代に伝えていくべきだろう。(粕谷)